



森ボラ 通信

第58号 2007年3月20日発行

N P O 法 人 北 海 道 森 林 ボ ラ ン テ ィ ア 協 会

札幌市中央区南2条西2丁目金市館ビル8F

Tel:241-8155 Fax:241-8308

E-mail:h-shinrin-v@indigo.plala.or.jp

URL:<http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

■ トピックス

◆ 3月セミナー



3月20日(火)参加20名、13時よりリンケージプラザにて3月セミナーを開催しました。前段は西野さんによる北海道遺産52件のうち25件の解説でした。画面の編集、解説の録音等西野さんの努力は大変なものであることがよくわかりました。内容としては人文的な視野からの物件が多く、選定の基準のあいまいさによるのでしょうか、森林に関与する立場からすれば意外にも自然的遺産の少なさに不満の残る印象でした。北海道遺産とは何物であるのかを認識する機会としては意義ある試みでした。例えばサッポロラーメンも北海道遺産の一つなのであります。

メインは寺沢実北大教授による「樹液の話」でした。シラカバに対する認識を改めざるをえない講義でした。樹液、なかでもシラカバの樹液の研究は20

余年もの実績があるとのことで、生物化学的学問上の内容を素人にもわかりやすい解説でした。樹液の採集方法、個体差のばらつきはかなり大きいものの1本からドラム缶1本もの収穫があるとか、樹液成分の薬効は高齢者の悩みである諸々の生活習慣病に対する柔らかな効用がある等、身近な内容だったこともあり新たな意欲が掻きたてられる内容でした。これからの森林整備作業の中身が充実することでしょう。樹液ばかりでなく、葉の薬効もあり、カバアナタケの抗癌機能も含めシラカバの活用が今後の活動の課題として大きく浮上することになりました。

寺沢教授を囲む会は例によってオーロラタウンの「銀座ライオン」に場所を移し、参加11名による楽しい語らいの会となりました。柴田さん壮行会に引き続いての「飲み会」で参加者が少ないのでは?との心配が杞憂にすぎなかったことを喜びとし、誇りにしたいと思いました。(高野 記)

◆ 澄川冬期作業の成果

2月16 20 23日 3月9日は澄川で倒木、懸かり木の処理をチェンソーとチルホールを使って行いました。柱や板になりそうな部分は3.65mの長さに玉切りし遊歩道端に木寄せしてあります。雪が解けてきたら古い小屋の修理などに使用できます。細いクリ材は柱に適しており、硬雪の上をロープで人力で簡単に引けるので小屋修理も始められます。この時点で長さ3.65m材41本2.1立米を処理しました。(酒井 記)

◆ 澄川冬期除伐の新方式

3月16日(金) 澄川環境緑地今年から冬季活動が始まりましたが朝の除雪から除伐と、なまった体をほぐすのにいい運動になり、硬雪渡りは癒されます。しかし今朝は皆さんつらいものがありました。突然の春の大雪が積もった上に昨日の有志による柴田さんの送別会、二次会の翌日でした。

午前カンジキをはいて40ヶの巣箱掛けをしキノコ汁の昼食の後、かねて和田さんから提案のあった巻き枯らし除伐を突然することにしました。試験地は駐車場から東に見下ろせる丘の頂きですからどんな風になるか簡単にモニターできます。ミズナラ シナ カンバ クリ イタヤカエデなどのDBH15cmほどの二次林です。巻き枯らし間伐は本州の森林ボランティアで流行っているようですが「広葉樹の除伐」はどうでしょう。作業は皮むきですから簡単に伐倒時の危険も懸かり木の苦勞もなく楽しいものでした。

萌芽の発生、虫害が出ないか、枯れるときの景観がどうか、もったいなくないかなど監視しながら議論してゆきましょう。(酒井 記)



◆柴田さん壮行・激励・おわかれ会

3月15日(木)17時より、柴田さんの帰郷を歓送するために有志22名がオーロラタウン「銀座ライオン」に集まりまして、盛大な宴となりました。なにしろ帰郷のことを事務局が知ったのは3月8日であり、その時点で札幌を離れる日が3



月22日という切羽の詰まり方でしたので、澄川の現場参加者および幹事会とで和田、津金両幹事の尽力により、会場の確保や柴田さんとの調整をおこないまして、決めました。会場の制約から先約22人で締め切りとさせていただきます。参加者一人一人の送ることに感謝の意がこめられていて、これまでの柴田さんの尽力の大きさを再確認いたしました。特にインターネットホームページの設計、ポスターや葉のデザイン・レイアウト等に非凡な才能を発揮され、協会のイメージアップに大きな貢献をされました。ほんとうにありがとうございました。これからもホームページのメンテナンスに協力を約していただきましたので、取り敢えずは安心しました。(高野 記)

◆神社山巨木調査

3月14日(水)前日から吹雪模様が止まず、参加者4名でしたが、予備調査なので決行しました。前日から積もった新雪は50センチほどもあり、時折地吹雪が舞ったり、アラレが降ったり、晴れたり、曇ったりの荒れ模様の天気の中で巨木に接近し、試験的に計測しました。積雪のために斜面上部の胸高130センチの高さが確認できないのですが、試験計測でも幹まわり11センチを計測しましたので、北海道一といわれている小金湯の千本桂の10.5センチよりおおきいことは間違いありません。神社山は面積20ヘクタール、山頂の標高は220メートルと小さな山です。南東斜面は原始状態の天然林が残されていますので、巨木の森でもあります。ざっと見た感じでは30本はあろうかと思われました。(高野 記)



◆支笏湖国有林協定調印

3月7日(水)13時から石狩森林管理署会議室にて「国有林における森林整備の活動に関する協定書」の調印式が3団体同時に行われました。当協は酒井代表幹事が調印を行い、事務局として高野、西野の2名が立会いました。場所および面積は石狩森林管理署千歳国有地5218林班1.12ヘクタールです。この夏に地存えを行い、秋に植付けをやります。前年の「セブン・イレブン方式」と同じ植え方のようなので、問題はありません。期間は平成19年3月7日から平成25年3月31日までの5年間です。隣接する林班に参加する他の団体は4団体ありますが、当協以外はいずれも企業で、ボランティア団体はわれわれ1団体のみでした。(高野 記)

◆野幌再生活動連絡会

2月23日(金)13時30分より、かでの2・7会議室にて平成18年度「野幌森林再生活動連絡会」が行われました。澄川活動日とかさなっていたことで、高野事務局長1名のみ参加しました。国有林側の報告および19年度の方針について発表され、参加12団体の代表による意見交換等が行われました。(高野 記)



■ 今月の幹事会

出席者：荻田、酒井、杉本(茂)、高野(豊)、津金、西野(悌)、棟方、村上(昭)、山中、和田

1. 4月5月作業スケジュール確認
総会日 4月23日で確定 時間15時から 木工24日とし入れ替える
澄川集材推進、きのこホダ木づくり
2. 助成金日本財団認可
ニセアカシヤ伐採と炭化材割を本格推進→木炭化
3. 3月内の業務
札幌市都市環境緑地18年度報告と19年度計画作製提出
19年度会費振込み用紙配布(3月ボラ通に同封)
4. 北海道「北の里山づくり」
森林ボランティア団体として参加申込む
5. 札幌市「森林フォーラム」
3月26日に具体化
6. 4月申請助成金関係
全労災、前田一步園、札幌市シニアチャレンジ
7. 19年度事業の進行点検
 - ①炭焼き・薪づくり 助成金認可→本格始動
 - ②しいたけ栽培 見込み進行
 - ③巨木調査 神宮駐車場使用認可、測高器購入
 - ④澄川森林生態調査 助成金申請済み
8. 理事・幹事人事(任期中につき一部変更)
柴田幹事辞任の補充、柴田さん壮行激励会
理事(テーマスクラブ関係)調整中
9. 事務局交代
4月1日から西野体制とする
10. 3月「ボラ通」記事担当
3月セミナー 和田



会員の動向：入会 浅井 昇

■ おしらせ

◆ 総会のご案内

日時：4月23日(月)15時から
場所：リンケージプラザ第二研修室(北1西10)

◆ 日本財団より助成金 100万円

ニセアカシヤ材の活用のための、移動式薪割機と炭化炉購入に助成をいただきました。

◆ 支笏湖根踏み

5月1日(火)支笏湖再生セブン・イレブン植樹地の根踏みに参加します。

◆ 事務局交代挨拶 高野 豊

新陳代謝は成長生物現象です。生物は絶えず新陳代謝を行い、組織を活性化しております。人間の社会的組織も同じで、組織の勢いを維持する基本は健全な新陳代謝を行うことだと思います。発足から5年、事務局を担当しましたが、馬齢も古希を迎えるにあたり、新しい事務局長に西野悌三さんを迎えることができましたので、3月31日までをもつて交代いたします。これまで曲がりなりにも事務局業務を勤めてこられたのも、会員の皆様の温かいご支援の賜物と感謝いたします。ありがとうございました。私同様に新事務局長にご支援をよろしくお願い申し上げます。

◆ 樹液採取現地指導会 澄川

4月18日(水)寺沢先生直接指導による
「樹液採り」を行います。
昼食はバーベキューパーティー(会費制)

■活動履歴

活動日	行事	参加人数	活動内容
3/20	3月セミナー	20	樹液のはなし(北大教授 寺沢実)
3/16	澄川	10	風倒懸木処理、巣箱掃除・補修
3/14	神社山	4	巨木予備調査
3/13	木工	11	
3/12	幹事会	10	
3/9	澄川	15	風倒懸木処理、巣箱掃除・補修
3/2	澄川	13	風倒懸木処理、ニセアカシヤ伐採
2/27	木工	13	
2/26	木工	14	
2/23	澄川	7	風倒懸木処理
2/20	澄川	8	風倒懸木処理
リンゴ園	冬期作業なし		

■ひとこま

◆澄川の巣箱点検

3月9日の澄川作業日に昨年かけた巣箱の清掃・補修をおこないました。市道真駒内滝野線沿いの南端から北に向かい水源通への分岐点までの450m間で30ヶ程度の巣箱を点検・清掃・補修しましてかけかえましたが、8ヶの巣箱が使用されていました。内6ヶがシジュウガラらしき苔を材料としたものでしたが、2ヶは全く苔を使っていませんでした。他に2ヶが冬の罇用で脱糞ばかりのもの、1ヶがスズメバチの巣でした。丁寧に隙間が少なく作られた巣箱が使われていますので、今後の巣箱づくりは今少し良い板で丁寧に作ること、釘よりも木ネジを使った方が点検・補修に便利なのが教訓でした。

3月16日はつづきをやり、使用11ヶまで確認しました。少し残したので、17日に残りを片付けました。使用18ヶまで確認しました。ゴミ不法投棄防止の一策として車道沿いに配置したにしては3ヶに1ヶが使用されていたことは驚いていいと思います。スズメバチに使用されたものが2ヶありました。修理不能の3ヶを廃棄しましたが、他は全て清掃・補修して架けなおしました。繁殖期にはもっとじっくり観察して所帯主を確認したいと思いました。そして来年また全箱調査しましょう。結果は下の表に示します。

林内に架けた分も調査したいと思います。車道沿いととの比較が楽しみになりました。

16日には拡張部分の林内作業道沿いに新しい巣箱を40ヶを架けました。全体で140ヶを架けていることとなります。来年はさらに頑張りましょう。

調査数	苔を使用	苔なし	使用数	鳥使用率	蜂の巣	生物総数	生物使用率
55	15	3	18	32.7%	2	20	36.4%



苔あり



苔なし



蜂の巣